



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2013 **1**



11月27日（火）、コープこうべ生活文化センター（神戸市東灘区）で開催された「国際協同組合同盟アジア太平洋地域総会 女性委員会交流会」で挨拶する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）本田英一会長。活動報告や日本文化の体験など、世界の協同組合の仲間と交流を深めました。（関連ページP.15）



兵庫県生活協同組合連合会 会長理事

本田 英一
(ほんだ・えいいち)



ポスト「国際協同組合年」 の取り組み

明けましておめでとうございます。東日本大震災、福島原発事故から、2回目の年明けを迎えました。当初からいわれたように、被災地の復旧・復興には大変長い時間がかかります。年の初めにあたり、あらためて被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、引き続きの被災地支援を会員の皆さまと確認し合いたいと思います。

さて2012年は、1月の「キックオフ大会」を皮切りに「国際協同組合年」に因んだ取り組みが展開されました。11月には、「ICA-AP（国際協同組合同盟アジア太平洋）地域総会」とその関連行事が、ポルトアイランドの神戸国際会議場を中心に開催されました。これらを通じて、私たちの協同組合運動が、国内はもちろんのこと、国際的にも広がりをもつものであること、また、「国際協同組合年」の「スローガン（協同組合がよりよい社会をつくります）」の実現が強く求められる社会状況が、日本で、また世界に広がっていることを確認しました。

ICAは、11月の臨時総会（イギリス・マンチェスター大会）で、「協同組合10カ年計画」を採択しました。「協同組合が2020年までに目指す

べき『基本方向』と『取り組み課題』を設定し、その達成のための『大胆なイニシアティブ』と『明確な実行計画』を含んだ企画を策定する」という大変に意欲的、挑戦的な方針提起であります。2013年総会において、その計画内容を確認する段取りになっており、私たち協同組合に関わる者は大いに期待し、また積極的にその一翼を担っていききたいと思うところであります。「国際協同組合年」は国連から与えられた冠ですが、今度の「協同組合10カ年計画」は、協同組合自身からの取り組み提起であり、協同組合が大事にする「自主・自発」という価値観からも、是非実現させたいものです。協同組合運動は地域に根ざしたものです。それが同時に世界の仲間とも連携して進められるものになれば、大変素晴らしいことだと思います。

兵庫県生協連は、会員の皆さまと一緒に、2013年を「国際協同組合年」のスローガン「協同組合がよりよい社会をつくります」の実現に向けた新たな一歩を踏み出す年にしたいと思っております。本年も、どうぞよろしくお願いたします。

CONTENTS

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 2. 想点 | 17. 単協通信
生活協同組合コープこうべ/姫路医療生活協同組合 |
| 3. 会員生協・今年の抱負 | 18. 協同組合のかけ橋 |
| 14. 会員生協・今年の抱負/近畿ろうきんのお知らせ | 19. 兵庫県のページ |
| 15. ICA-AP地域総会・ICA-AP女性委員会交流会 報告 | 20. 「ひょうご消費者セミナー2012」のご案内/
大学生協寄付公開講座のご案内/県連日誌/編集後記 |
| 16. 第4回理事会 報告/
第11回兵庫県健康福祉部と兵協連理事会との懇談会 報告/
(公財)兵庫県健康財団「がん・生活習慣病 講演会」のご案内 | |

2013年 今年の抱負

国際協同組合年が残してくれたもの



生活協同組合コープこうべ
理事
伴 智代

新年明けましておめでとうございます。
昨年は「国際協同組合年」ということで、コープこうべでは様々な活動のなかで自分達の組織の存在意義を見直すことや、お互いに助け合うことの重要性を再確認できた年であったと思います。

さてICAAアジア太平洋地域総会では貝原前知事から兵庫県では、協同、共助の考え方がしっかり根付いていたことが、震災時、世界を驚かせ、世界から称賛された被災者の秩序ある行動に繋がったのではないかとご報告頂きました。ただその協同、共助の取り組みを根付かせてきたのは誰かと考えると、それはまさしく組合員として自分達のくらしをより良いものにしたと願う様々な場面で協同、共助の考え方をくらしの中で実現してきた多くの先輩の組合員に他なりません。その思いを引き継ぐべき私はどうなのかと振り返った時、余りの力不足に恥じ入るばかりですが、国際協同組合年を契機として多くの先輩方の努力に答えるべく協同、共助の思いを社会に広げ次の世代に引き継いでいくための一歩を兵協連の皆様とともに踏み出したいと思えます。

本年もよろしく申し上げます。

村づくりの柱に



佐會利消費生活協同組合
理事長
中村 豊

新年おめでとうございます。

おそらく日本で一番小さな生協かも、組合員72人ながら設立52周年目を迎えます。昨年、何十年ぶりの売店内リフォームを、13名の役員が日曜大工でやり遂げました。商品の陳列スペースを半分縮小し、机とイスをセッティングして「談話コーナー」を新設しました。村の全員が組合員なので、交流場所として、また農作業の合間の休憩場所として提供しています。子どもたちには駄菓子売り場を楽しみに、中・高齢者の方々はお茶を飲みながらゆったりと集う——そんな風景を描きつつ、いろんな役割を果たしていきたいと計画を練っています。趣味の作品や地域の幼稚園児の作品展示も始めています。

国内生産1位のダリヤを中心にした「花の里」の歴史は、生協発展の礎でもありました。就業形態の変化や若年層の減少は、やはり村の活気に影響しています。そこで、建物としてもずっと村の屋台骨であり続ける生協が、人々をつなぐ柱として機能できればと思っています。協同の精神を忘れずに、みなさんの声に応えていける組織として存続させていこうと気持ちを新たにしています。



生活クラブ
生活協同組合都市生活
副理事長
大沼和世

生協という「道具」を使いこなして

新年あけましておめでとうございます。

今年の3月で、東日本大震災から2年がとうとしていきます。一瞬にして人々の暮らしと環境や食の安全が断ち切られる大惨事でしたが、原発の収束も、被災者の生活再建も見通しのないまま、過去の事のような空気を感じます。私たちは、昨年はリフレッシユステイ、「内部被ばくを生き抜く」の上映会、生活クラブふくしまの組合員を招いて、現地での状況を聞いたり、福島での青空市に物資を送ったり、東北に生産者を訪ねたり、...と自分達にできることを続けてきました。今は福島県外のこともたちの甲状腺検査のデータの集積に協力しています。引き続き原発をめざして、省エネの暮らし方を心がけ、私たちがだからできる息の長い支援活動を続けていきたいと思っています。

生協を通してボランティアやカンパに取り組みますが、協同の和・輪によって、より有効に役立っていることが実感できます。また、生協を通して、生活者の視点で色々な活動や行政への働きかけなどが的確に行え、生協は、私たち生活者にとって有効な「道具」だといつも実感しています。今年も多くの組合員に出会うことと思いますが、生協という「道具」を一緒に使いこなして、少しでもより良い暮らし方を求めて活動していきたいと思っています。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事
西村明彦

組合員の声に応えて

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災からの復興元年となるべき一年でしたが、現実にはほど遠いものでした。福島第一原発が放射能を放出し続ける中での老朽化した福井県大飯原発の再稼働。2014年からの消費税増税法案可決。農業だけでなく医療や保険など国民の生活を支える基盤まで壊しかねないTPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加。そして日本の繁栄の礎であり世界に誇るべき日本国憲法をないがしろにする政治家・政党の躍進。

暮らしをめぐる状況がますます厳しさを増す中、協同組合として何をなすべきか。現在、2013年度から三年間の中期計画ビジョンを策定中です。昨年十一月には30名以上の役員が集まり三年間で実現したいことを出し合いました。食の安全や環境、福祉など幅広い分野の提案がありました。第一次中期計画ビジョンの成果と課題を総括した上で、年度内にまとめる予定です。

景気の低迷やネットスーパーとの競合など無店舗事業の事業環境も厳しさを増していますが、組合員の多様なニーズに応える生協であるよう努めていきます。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長
小泉佳久

2013年を2012年よりは 良い年にする努力をします！

数年続いている若者の就職難、非正規雇用の増加、その上、非生産人口（高齢者）の激増などデフレ不況が進行しています。子どもを産み育てることへの不安、経済的、社会的不安が諦めに似た気持ちとして社会を覆っています。物価や賃金の下落が続く、消費者は支出を抑え、デフレ脱却の道筋は一向に見えてきません。衆議院選挙の争点にもなった原発、TPP、景気回復、消費増税等どれをとっても国民生活には重要な課題です。

そんな中、私たちはこれからも「いのち・自然・暮らし」と日本の農業を守るため原発再稼働及びTPPに反対していきます。私たちの理念を実現するため、食料自給率アップ、高品質低価格な有機農産物の生産と利用拡大、子ども達を放射能被害から守る自主検査強化など一層の努力をしていきます。

また、2013年「子どもにやさしい、高齢者にやさしい」コープ自然派をめざします。女性や高齢者の就業現場への進出が促され、若い世代においては共働きが前提となる生活スタイルが増加するといわれる中、多様な生活スタイルに対応した商品の提案、サービスの提供など事業革新を進めていきます。

2013年も希望を持って努力して参ります。今年もよろしくお願ひします。

組合員福利の増進



西宮市職員生活協同組合
事務局長
山西 元

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、目前の課題に取り組むだけで精一杯の一年だったように感じます。今年はそのだけではなく、生協の役割、活動の意義についても考えていける一年にしていきたいと考えています。

当生協では、昨年、恒例の生協祭を第40回の節目として実施いたしました。生協祭の福引に第40回記念賞を新設し、各賞の景品には東日本大震災復興支援のため、宮古市職員生協より、東北の特産品の詰め合わせを調達させていただきます。

供給事業では、テナントが2店撤退等、売店部門は厳しい状況にあります。しかし一方で、西宮市の観光キャラクター『みやたん』をプリントしたポロシャツは、職場でのクルビズを推進する市の方針との相乗効果で約2000枚を販売いたしました。また、職員互助会と連携し、互助会が実施するカフェテリアプランのポイントを使うことができる、健康増進関連商品のあっせんを実施し、多くの組合員の皆様に喜んでいただくことができました。

本年も、組合員福利の更なる増進のため、様々な企画を立案し実施できるよう、一層努力してまいりますので、皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。

組合員と一緒に



兵庫県学校生活協同組合
副理事長
加賀晴彦

新年あけましておめでとうございます。
「国が何をしてくれるのかではなく、われわれと一緒に何をできるか、それを問うのが米国らしさだ。」昨年、激戦を制し、再選となったオバマ大統領の就任演説の一節です。

組合員を取り巻く状況も、学校生協の事業環境も厳しく激しい変化に晒されています。「連帯と協働」の原点に立ち帰り、組合員と一緒に環境変化に対応していくことが今まで以上に重要であることは言を俟ちません。そのためにも、組合員の意思とニーズが反映する運営、事業展開、活動を本気になって積み重ね、組合員からの期待と信頼に応え続けていく2013年としなければならぬと考えています。

昨年立ち上げた「学校支援プロジェクト」を拡充させる。また、組合員の願いや声を受け止めるための広報広聴活動を充実強化する。他の学校生協との連帯を強化する等々。

「勝つ側は、必要なことを行い、負けた側は理由を述べるだけ。」この戒言をしっかりと胸に刻み邁進していく所存ですので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新年の抱負



神戸大学生生活協同組合
専務理事
末松泰信

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、国際協同組合年でありICAアジア太平洋地域総会が開催されたこともあって、神戸大学内で「協同組合論」(寄附講座)を1月末まで開講しています。一部公開講座も実施することから、学生のみならず幅広いお立場の方にもご参加頂き、生協に対する益々のご理解を得られるのではないかとたいへん期待をしているところです。

今年想定される最も大きな課題は、老朽化や新しい業態に対応するための施設改修・改善など、投資に関わる案件が多々生じ始めたということだと思います。食堂・購買あわせると20店舗以上を抱えて運営していますので順次手直しをしていく計画ですが、学生組合員にとっては今を、教職員組合員や生協で就労する職員にとっては将来を、もっと価値あるものにするために努めて参りたいと思います。

世情は混沌としていて、誰が主役で不幸の判断すら出来ないように見受けられます。「組合年」は終了したけれども、生協だけは何時も決して「ブレない」組織であり続けたものです。

本年も引き続き、よろしくお願いいたします。



関西学院大学生生活協同組合
専務理事
高橋秀行

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひ申し上げます。

関西学院は2014年に創立125周年を迎えます。さまざまな周年事業が行われますが、それに関連し、生協の幾つかの店舗が移転や改装を行うことになっていきます。2014年に先駆けて、昨年11月には学生の住まいの幹旋や管理を行う「学生住宅部」が移転しました。今年の春にも既存店舗の改装があります。移転や改装で装いを新たにすること、ということは、生協が組合員の組織として何をしようとしているのかを問われる機会であるということです。組合員のニーズや「QSCA」といった基本の部分を改めて点検していきたいと考えています。

今後も消費税増税や原子力発電の問題など、組合員のくらしは厳しさが続くと思われませんが、こんな時こそ組合員の生協への期待を裏切らず、基本にかえり、芯の通った事業運営をしていきたいと思ひます。皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事
衛藤昭二

新年の抱負

新年明けましておめでとうございます。
今年も神戸市外国語大学生協をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日本経済は厳しい状況が続いており、大学の経営環境も今後ますます厳しくなると予想されます。私どもの生協では2010年より経営改善を行ってきた結果、大きな成果を得ることができました。また、昨年は大学生協にしかできない取り組みとして、「大学や学生のサポーターの役割」を目標にして実施してきました。これも少しずつですが、成果をあげていると実感しております。

今年も大学生協を取り巻く環境は厳しくなるものと予想されますが、私どもの生協では昨年まで取り組んで来たことを引き続いて行っていくのはもちろんのこと、今までできなかったことをあらためて見直し、初心に帰って一年間頑張りたいと思ひます。

皆様のご指導・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



甲南大学生生活協同組合
専務理事
内田真紀子

新年にあたって

新年明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひいたします。

昨年は国際協同組合年であり、ICAアジア太平洋地域総会が神戸で開かれた年でもありました。改めて、私たち協同組合はチームであり、組合員はひとりひとりが大切なメンバーであることに意識をさせられました。

甲南大学生協の2012年度は、大学が主催する「甲南平生塾」に協力をして、学生の社会体験プログラムを店舗で行ったり、生協についての話もいたしました。甲南学園の創設者である平生鈺三郎氏がかつて、賀川豊彦氏の活動を支援していたことを初めとして平生氏の想いを多く学ぶことで、学生組合員から協同組合への関心が一層深まったように感じています。

また、一昨年の県からの賞に続き、昨年度は神戸市より「男女いきいき事業所表彰」をいただきました。損益状況は大変厳しいですが、「迷う人が多ければ目的は果たせない」と言う言葉を胸に置いて、2013年度は改めて生活協同組合としての目的や理念を迷うことなくスタッフ全体で共有し、安定した経営状況の仕組みをしっかりと創ってまいります。この間の生協スタッフの目覚ましい頑張りによって、甲南大学生協の将来のビジョンが見えてまいりました。点を線に、線を面に、学生組合員と繋がりがながら活動を拡げてまいりたいと思ひます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

明けましておめでとーございませう



兵庫県立大学生協同組合・
園田学園女子大学
生協同組合
専務理事
藤井貴浩

明けましておめでとーございませう。本年も皆様にとって良き年となるよう祈念いたします。

従来の園田学園女子大学生協に加え、今年度から兵庫県立大学生協の専務理事も拝命し、大学生協の西の端（姫路・播磨・兵庫県立大学生協）と東の端（尼崎・園田学園女子大学生協）を担当しております。

同じ兵庫県ですが、方言も違えば文化も違い、本来大学ですので様々な地域から通学されているとは言えども、醸し出す雰囲気も違うように感じます。

但し、それぞれの大学の構成員の方の願いは同じで、より安心に、より心地よくキャンパスライフを過ごしてもらえよう、キャンパスごとの特性にあった、我々の思いがダイレクトに伝わるような事業、運動を展開していきたいと思っております。

今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を賜り、着実に歩み続ける所存です。

新年を迎えるにあたって



神戸薬科大学
生協同組合
理事長
畑 公也

明けましておめでとーございませう。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

薬科大学は、薬学6年制の完成にとともに、学生定員が4年制時の一・五倍になりました。それによって、まず第一に解決すべき問題として浮上したのは、学生食堂のキャパシティの問題でした。当面この一、二年は教務課の協力により、時間割上、昼休みを廃し、学年ごとに分散して休みを取る体制を作ることで、何とか乗り切ることができました。

また幸いにも、大学が今年創立八十周年を迎えるに当たり、その記念事業として新体育館棟の建設が企画され、そこに新食堂と学生ラウンジが併設されることが決定いたしました。体育館が最上階、二階、三階はラウンジと食堂ですが、一階には生協の購買部が規模を拡大して入ることになりました。工事は着々と進み、三月には完成する予定で、目下新店舗での営業に向けて準備を進めているところでです。学生諸君も期待をもって待ち構えていると思いますが、その期待を裏切らないよう、「魅力ある生協」の実現を目指すのが、私たちに与えられた使命です。何とも気の重いことですが、今年が薬大生協飛躍の年になるよう、皆で協力してがんばる所存です。請うご期待！

生協設立20周年を迎えて



神戸親和女子大学
生協同組合
専務理事
今村奈星

明けましておめでとーございませう。本年もよろしくお願いいたします。

神戸親和女子大学生協は、昨年の12月に設立20周年を迎えました。これまでの皆さまからの温かいご指導、ご支援にあらためて感謝いたします。

兵庫県下の女子大学で最初の大学生協の設立ということで、大学から大きな期待を寄せていただきました。当時の学生が設立運動を起し、大学や教職員を動かしてできた生協です。大学主導ではなく、学生の意思によって作られた生協ですので、まさに学生による学生の為のお店です。

あれから時代は大きく変わり、社会も経済状況も学生の生活も大きく変化しました。生協はその時々で、学生のライフスタイルに合った店舗運営を行ってきました。日々学生組合員の声を聞き、大学と一緒に学生の為にという思いがあったからだと思います。

この20年様々な事があり、少子化に伴う大学の入学者数の減少や、学科再編など大学の動きに上手く対応しきれなかった部分もありました。その際の負の遺産も少しずつですが、解消しています。これからの10年、20年はより発展し、大学とのよきパートナーであり続ける生協運営をしていきたいと思っております。

今年、20周年の店舗イベントや学生委員会と一緒に企画も行いながら、改めて組合員の皆さまに生協を見直していただく機会としたいと思っております。

最後になりましたが、神戸親和女子大学生協が無事に20周年を迎えることができた事は、皆さまのお力添えがあってこそだと思っております。今後も変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



大手前大学生生活協同組合
専務理事
高橋健太郎

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

昨年度、日本経済は依然として長引く不況の中、雇用と所得をめぐる不安は解消されず、大学生協を取り巻く環境も非常に厳しいものでした。そのような環境の中、園田学園女子大学生協との業務・運営連携が一定の成果を上げることが出来ました。3年間の業務提携は終了しますが、大学生協の運営面で貴重な改善を図れたものと思います。これからの小規模大学生協における良いモデル例になったと思います。

今後、大学生協の職域である大学経営そのものが少子化のあおりを受けて厳しくなっていくと考えられます。学生の可処分所得の減少、即ち購買店舗の利用高減少の事態が想定されます。

自生協の今後の課題としては、上述の業務提携での成果を活かして更なる安定した経営基盤の構築を目指すことです。本年も引き続き課題達成のために邁進致します。

今後も皆様方のご指導・ご支援を賜りますように心よりお願いを申し上げます。



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事
塩田恵美

新年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

2012年度は国際協同組合年ということもあり、協同組合の意義を見直し、認知度を広げる取り組みを行う一年となりました。「甲南女子大学生協」のシンボルとなるロゴマークを作成し、組合員の目に触れる機会を増やすことで、まずは「大学生協」に親しみを持ってもらうことに努めました。また、「大学内の大学生を支援する大学生協」から、改めて大学内に限らない生活範囲に視野を広げ、「地域社会の中で生活する大学生を支援する大学生協」として、学生とともに大学を含む地域社会全体の発展に貢献することを目指しました。学生組合員と一緒に、生活力向上を目指し兵庫県と協力して消費者活動を行ったことや、地元商店街と協力して震災復興支援活動を行ったことは、その取り組みのひとつであり、持続可能な地域づくりにも貢献していきたいと考えます。

もちろん大学内にある店舗としても、学生の要望の反映と生協の役割発揮に重点を置き、多くの組合員にご協力いただき、経営的にも安定した損益状況を維持することができています。2012年度の国際協同組合年をきっかけとして、2013年も魅力ある甲南女子大学づくりに貢献し、元気な組合員が社会で活躍することを願っています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事
藤本淳平

学校創立50周年の記念すべき年に

新年あけましておめでとうございます。

旧年中はご関係皆様より格別の御高配を賜り、誠に有難うございました。

はやいもので神戸高専生協の兵庫県生活協同組合連合会への加入が叶って1年4ヶ月。この間、小規模生協故の難しさを痛感しながらも、関係各位の温かいご指導ご協力のもと日々勉強させて頂きながら、こうして新しい年を迎えることが出来ました。

前身であります六甲工業高専から数え、当校にとつて今年には学校創立50周年にあたります。既に昨年より学内はブレ行事の開催や記念事業への準備などで、お祝いムードと共に慌ただしくなっております。生協としても様々な場面で協力・協業し、学校一丸となつてこの記念すべき年をお祝いできればこれ以上の慶びはございません。

その為にも殊、生協運営に関してはこれまでに以上で宛の緒を締め、黒字を残せる事業展開と健全運営に努めて参る所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

「連帯の仕組み」に磨きをかける年に



大学生協阪神事業連合
専務理事
寺尾善喜

協同組合原則八第6原則Vには「協同組合は、組合員にもっとも効果的に役立ち、また協同組合運動全体を強化するために、地区内で、全国的に、国際的なブロックで、さらには世界的な規模で、その連帯の仕組みを通して互いに連携、協力する」とあります。事業連合は会員生協の事業運営に効果的に役立つための「連帯の仕組み」であることを肝に銘じ、その仕組みに更に磨きをかけなければなりません。

阪神事業連合の結成をメイン課題とした第1期中期計画（2010年～2012年）を土台とし、次のステップを展望する第2期中期計画（2013年～2015年）の執行に着手する初年度を迎え、身の引き締まる思いがします。会員生協を取り巻く事業経営環境がますます厳しさを増すなか、会員生協が健全な事業と力強い運動を推し進めることができるように、会員生協に対する総合的なサポート機能の役割発揮を中心に据えて、事業連合の業務内容の更なるブラッシュアップを進めます。

「大学生協らしい」取り組みを基本に据えながらも、さらに一歩踏み込んで「阪神らしい」「さすが阪神」と評価頂けるような取り組みが旺盛に展開される、そんな会員生協を下支えする事業連合を目指します。

権利としての社会保障の充実を



神戸医療生活協同組合
理事長
道上哲也

新年おめでとうございます。
私たちはこの一年微力ながら、東日本大震災および福島原発事故の被害にあわれた地域と人々へのボランティア活動や健康相談などを行ってまいりました。このことを通じて、どのような場合であっても私たちには「健康に生きる」権利があることを痛感してきました。

しかし医療と介護をめぐる状況は年々厳しくなっており、昨年決定された消費税の増税がさらに追い討ちをかけようとしています。私たちは家族と国民相互の助け合いばかりを強調した「税と社会保障の一体改革」にははっきりと反対の意思表示をしており、権利としての社会保障の充実を求めています。

昨年は定款地域をブロックに分け、地域ごとの総代会を開催、医療生協の活動も地域を中心にやってきました。そのなかでのきずなは深まってきたように感じています。さらに「とんとん」という名称での組合員による自主的な助け合い活動も開始しています。

そうした組合員の力に依拠しながら、今年ハセンターである神戸協同病院の役割と今後の方向性をあらためて定めていくという大きな課題に挑戦してまいります。
今年もよろしくお願いいたします。

「協同のちから」を確信にして



尼崎医療生活協同組合
理事長
船越正信

明けましておめでとうございます。東日本大震災から二回目の正月を迎えましたが、国からの有効な支援策がない中で、住民の生活再建は遅々として進まず、多くの方が今もなお不安な日々を過ごしています。

尼崎医療生協では、震災直後の医療支援に続き、宮城県山元町にボランティアコーディネータを派遣して、地元の医療生協の皆さんと連携しながら、現在も生活支援、ボランティア活動を継続しています。活動を通して地元へ新たな医療生協の班も生まれていきます。これらの経験が少しでもこれからの被災地の人々の生活の支えと再建につながっていくものと確信しながら、息長く支援活動を継続していく必要があると考えています。

支援活動に参加した多くの職員、組合員の経験は、私たちの尼崎の地でのまちづくり、助け合い活動に、きっと活かされていくのではないかと思っています。

昨年、震災支援活動をまとめた本のタイトルにもなった「協同のちから」「いのちの平等」をつらぬく尼崎医療生協の挑戦」を、今年も様々な場面で実践していきたいと思いません。



阪神医療生活協同組合
専務理事
西川英樹

新年の抱負

2013年は、大きな転換点になる年と考えています。創業より43年目、組合員と共にあゆみ、幾多の変化に対応し、議論を重ね、試行錯誤しながら進んできました。先人の努力なくして今はありません。歴史を重ねるなかで中心を担う人たちも少しずつ入れ替わっています。私も昨年6月に専務理事を拝命し、新たなスタートを切りました。これからも事業と運動を通して、安心して暮らせる地域社会をつくるという理念のもと、挑戦は続きます。

変化の多い時代の流れに対しては、迅速・柔軟に対応し、傾聴、情報公開を大切にしつつ、なぜ私たちは生協という形態をとって地域に貢献しようとするのか、その意味を追い求めていきたいと考えています。これまでの歴史を大切にしながら、これからの生協らしさを求めて取り組んでまいりたいと思います。



兵庫医療生活協同組合
理事長
竹本貞雄

安定した経営をめざす

政治・経済の混乱の中で新年を迎えました。一昨年のも東日本大震災は、復興への必死の努力が続けられていますが、今だ展望を見出せず厳しさは変わっていません。師走の総選挙で政治の動向は不透明となり、消費税の引き上げ、社会保障の遅れ、雇用不安などが続き、国民は安心できる状況ではありません。日本全体が多くの分野で混乱の時期になっているといえます。医療分野も例外なく「安心してかかれる医療」には、まだまだ道のりは遠く関係者の努力だけでは、困難といえます。

兵庫医療生協は、一時期の厳しい経営状態を脱してようやく健全経営となり、新年を迎えられたことをスタッフ一同喜んでおります。

本年は、経費の節減に昨年以上に努力し、健全経営の維持とともに、組合員や地域の人たちが気軽に相談でき、それに応える「信頼」でき「安心」できる医療機関「めざして努力していきます。とりわけ地域の人達から「頼りになる診療所」と言われるように努力して、小規模でも「キラリと輝く」活動をめざします。



宝塚医療生活協同組合
理事長
茅野涼一

自治体・地域連合組織と協働して 高齢者にやさしいまちづくり

新春のお喜びを申し上げます。

当生協は昨年生協法人になって40年になり、「40周年記念」の取組みとして、健康まつり・記念誌の発行・記念式(祝)典を催し、組合員と理事職員が更なる前進と発展を生き高く確認しました。長年ご尽力いただいた今井鐵高松診療所名誉所長・大西正介前専務理事・友成光吉前理事長の死去という、悲しい出来事が有りましたが、故人の意思を引き継ぎ組合員と地域の健康づくりに邁進する決意です。

また、WHOと日本医療福祉生協連合会が呼びかけた、「高齢者にやさしいまちづくり」に呼応して、一昨年60歳以上の組合員にアンケートを実施しその分析の結果を宝塚市と自治会・老人クラブ連合会等に提供、協働の取組みを要請してきました。当面WHOのグローバルネットワークに自治体が登録し、その施策を住民組織と医療生協の3者で推進しましょうと提案しているところです。今年更に前進させるために努力していきます。

組合員ご家族のご健勝・ご多幸と兵協連に結集する生協の発展を祈念して新年のあいさつとします。

地域における「認知症ケアの拠点づくり」



姫路医療生活協同組合
専務理事
黒岩勝博

新年明けましておめでとうございます。昨年は、「事業を通じて社会貢献で、地域包括ケアを推進します」を掲げ、3月に福祉介護センターとおつ（小規模多機能ホームとデイサービスの併設施設）、4月に福祉介護センターがら（小規模多機能ホームとデイサービス、訪問看護、訪問介護の併設施設）を開設しました。8月には当生協38番目の事業所となる訪問リハビリステーション共立病院を開設しました。

今年、7月に福祉介護センターめが（グループホームと小規模多機能ホームの併設施設）を開設予定です。グループホーム、小規模多機能ホームともに、介護度が中重度・認知症対応の事業所です。これらの事業所は、今後、地域の「認知症ケアの拠点」としての役割が求められます。

当生協は、在宅サービスの限界を高め、介護が必要になっても住みなれた地域で安心してくらし続けられるまちづくりをめざしています。これからも介護度や医療依存度が高い方も、在宅でサポートできる環境整備をすすめます。

今年も組合員による健康づくり・介護予防・助け合い活動と事業活動をリンクさせた地域包括ケアを推進してまいります。

GOGOプランの最終年に、大きな飛躍を



ろっこう医療生活協同組合
専務理事
金丸正樹

新年のお慶びを申し上げ、この一年の抱負を申し述べたいと思います。

「早く、永く、深く」をそのモットーとして掲げている東日本大震災への支援行動は、昨年も続けて取り組みました。岩手県大船渡市への『いかなご届け隊』、地域医療インタラシップ、秋期支援行動などを実施し、そのなかで現地の被災者の皆さんとはすつかり顔なじみにもなっています。いっぽう、放射能被害に苦しむ福島へも『いかなご届け隊』派遣、小児甲状腺検査の実施とデータ提供など、役職員が心を合わせて果敢に取り組みました。

この被災地支援活動は、今年も取り組むことに変わりありません。阪神淡路大震災の被災経験を有する当生協にとって、長期の活動テーマとしてとらえる必要があるといえるでしょう。

また、今年的重要課題は、事業所空白地の東灘区への新たな事業所建設にチャレンジし、地元の組合員の長年の夢を実現することです。当法人の第五次五カ年計画（『GOGOプラン』）の最終年度にあたる今年、ぜひとも大きな飛躍を実現したいものです。

すごいぞ！「抱っこボランティア」



たじま医療生活協同組合
理事長
千葉 裕

昨年は国連が定めた「国際協同組合年」でした。「協同組合がよりよい社会を築きます」がスローガンでした。この理念は、もちろん今年も心して実行していかなければなりません。とくに近年は非正規労働者が三人に一人以上と増え不安定な生活を余儀なくされており、自殺・いじめ・貧困などの問題が国民生活に深刻さを与えています。だからこそ国民生活の安定と生活文化の向上を期することを目的とする「協同組合」という組織が、存在意義を発揮しなければならないと心を新たにしています。

診療所では2005年から高齢者の患者ほかを対象に「送迎ボランティア」を行ってききましたが、昨年8月には子供の予防接種の手助けにと健康推進委員会を中心に「抱っこボランティア」が始まりました。藤井高雄医師の「家庭医の研修・養成・活動の場をつくりたい」という構想も前に進んでいます。

医療・介護・保健のネットワークでいかに地域に貢献するか、今年も強くやさしい組織をめざして追求していきたいと思えます。



ひまわり医療生活協同組合
副理事長
三橋 徹

組合員参加で活動拡大の年

ひまわり医療生協は、組合員数1050人余りの生協ですが、これまでの総会から今年初めて総代会に移行して開催します。そのため、現在初めての総代選挙に取り組んでいます。

それにあわせて、組合員が参加するひまわりクラブや健康大学などの取り組みを昨年から開始し、それまでの事業所運営が主の活動から一人一人の組合員が自分の活動として医療生協の活動を作ることへ拡大しようとしています。

新しくできたひまわりクラブの名前を紹介しますと、「お茶&おしゃべり会」、「ひまわり聞き書き隊」、「ツボ押し会」、「三線会」、「症例報告塾」…その他、震災復興を考える会や労働組合が呼びかけて開いた健康のための会などが継続的な活動を始めています。

今年も、初めての総代会にあわせ、ひまわりクラブや地域の班作り、健康大学などに取組み、組合員さんが参加する活動を拡大して皆がつながり幸せになることを目指します。



神戸市民生活協同組合
専務理事
小野田敏行

「支えあい・助けあいの市民共済」の実現に向けて

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

さて、本年は当組合にとって大きな節目の年となります。昭和三十年に火災共済事業を目的として設立された当組合は、時代の要請に沿って観光業等様々な業務を行って参りましたが、生協法の改正に伴い、本年四月から火災・医療・交通災害・子ども共済事業を行う共済事業専門組合に生まれ変わります。

昨年ICAアジア太平洋地域総会が、我が国の生協活動の発祥の地、神戸で開催されました。その中で、「阪神・淡路大震災や東日本大震災では、随所に住民相互の助け合いが見られ、世界から大きく賞賛された。それは、我が国には、度重なる災害の歴史から共生の思想が根付いているからではないか。」という指摘がありました。事実、一八年前の未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災においては、至るところで、住民相互の救出・消火活動や復旧・復興活動が展開されました。

私たち職員一同、「新生・神戸市民生協」の誕生を迎えるにあたり、こうした地域における共生の精神を思い起こすとともに、第三の共同体と言われている協同組合の意味を再度認識し、組合員の暮らしの安心のために、鋭意努力して参りたいと考えております。



尼崎市民共済生活協同組合
常務理事
小寺敬二

年頭に当たって

新春のお喜びを申し上げます。

お正月と言えば、私達の時代の遊びは、凧揚げ、羽つき、そして、百人一首が定番であった。その百人一首は天智天皇から順徳天皇にいたる100人の秀歌から成り、古典和歌の普及に役立ったと言われている。その百人一首に関わる書物に「百人一首改観抄」がある。これは、尼崎に生まれ、国学祖と言われた契沖によるものである。

国学の基礎を築き、歴史的かなづかいの制定者とも言われている契沖の名を世の中に馳せたのは、「万葉集」を中国からの儒学や仏教の影響を受ける以前の日本古来の「精神性」を取り戻すために、日本の古典を研究する思想に基づき、その注釈を行った実証的研究の「万葉代匠記」であった。そして、その中で、人為的は理屈(儒教や仏教)ではなく、古代日本の「素朴で力強い精神性」を見出していると言われている。

本年の第一歩を踏み出すに際して、今一度、尼崎の偉人「契沖」の足跡を偲び、共済活動に強く謳われている「精神」を噛みしめながら、協同組合の「人と人を結びつけ」、生命と財産を守る私共の共済活動の役割・意義を真摯に見つめ直したい。

「明るい年を想う！」



姫路市民共済生活協同組合
理事長
藤田雄三

新年、明けましておめでとーございます。大晦日には、除夜の鐘を聞きながら一年を振り返り、一年間の自己評価や反省をし、そして、新年を迎えると、ご家族と共にお祝いをしながら、「今年はこの年になればいいな。こういう事をしよう。」など、年頭計画に想いを寄せられた方も多いのではないかと思います。

正に、「二年の計は元旦にあり」です。昨年は、個人消費や輸出の減少等、内需の冷え込みや景気の冷え込み感も強く、企業の大規模な業績の悪化など、生活の不安や閉塞感を漂わせるニュースも多く、私達の生活を取り巻く社会状況は、極めて厳しい時代であることを認識させられた年でありました。今年こそ、安心した生活の確保が図られる年であることを願っております。

そのような中、昨年は「国際協同組合年」の年でもあり、改めて、協同組合の意義、果たすべき役割を再認識する良い機会を得た年でもありました。

姫路市民共済といたしましても、常に組合員サイドに立ち、より地域に密着した事業運営と、「助け合い」の気持ちの浸透を図るよう、職員一丸となって取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

笑顔



西宮市民共済生活協同組合
常務理事
河村英三

謹んで新年のお喜びを申し上げます。昨年は「国際協同組合年」でもあり、また東日本大震災の復興に向けた様々な取り組みが行なわれるなど、多くの人々が共に支えあい助け合うことの大切さを感じた一年でした。

組織にとって、人材、資金力、情報のネットワークが重要ですが、お客様と接する職員の役割は特に重要です。

私共市民共済の最近のエピソードを紹介します。職員を名指しで、店頭にこられたお客様が、「先日、親切で丁寧な説明をしてくれたので、もう一度会いたい」と笑顔で話されました。

組合員の作品展示会では、来館された方が、帰り際に、満足されたように「よかったです」といわれました。

会場をお花で華やかにデコレートしていただいたグループの方、献茶の接待をしてくださった方から、「喜んでいただいでよかったです」と思わず笑みがこぼれました。

今後とも、よりきめ細かいサービスをモットーに、改めて、事故や災害に遭わない、暮らしの安全・安心に向けた取り組みを進め、この一年、組合員の皆様の笑顔が一杯みられるようにとの思いを強くしております。

皆さまのご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

新年の抱負



兵庫労働共済生活協同組合
理事長
酒井行雄

新年あけましておめでとーございます。皆様方におかれましては、健やかな正月をお迎えになられた事と拝察いたします。

さて、今年の3月で、あの東日本大震災から丸2年を迎えようとしています。福島県の原発処理問題を含めて、復興への道のりはまだまだ遠いものがあります。

一方被災された方々の中で、自然災害への備えが皆無あるいは十分でなかった人も多く、経済的困窮を余儀なくされている方の話を耳にするたびに、心が痛む思いです。

全労済では昨年より「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を積極的に展開していますが、この運動は方が一の自然災害に対して「無保障者をなくそう」と言うものであり、全労済に限らず、他の共済や損保を含めた契約を進めるものです。

今年も「不幸な組合員を出さない」を合言葉に、本運動を力強く推進してまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



近畿労働金庫兵庫地区
統括本部
本部長
若山忠義

すべての勤労者の笑顔のために

新年おめでとうございます。
平素からのご支援・ご愛顧に厚く御礼申しあげます。

「ろうきん」は働く仲間が創った協同組織の福祉金融機関として「働く仲間の暮らしを支える」ことを目的としています。

私どもは、働く人々からお預かりした資金を働く人たちの大切な財産として、住宅・結婚・教育資金などへ循環させ、働く仲間とその家族の生活を守り、より豊かとなるための生活者本位の金融機関として事業を推進していかなくてはなりません。

昨年、私どもは第五次中期経営計画を策定しました。最重要課題を「収益の回復」、最優先課題を「次世代システムへの移行」として、「すべての勤労者の笑顔のために」を活動の柱に事業展開をスタートさせています。来年2014年の1月には全国の13金庫のシステムが新しい「次世代システム」に移行します。

そのためにも、今年1年間は移行に向けての総仕上げの年にしなければならず、総力を上げて取り組んでまいります。新システムへ移行しますと、ATMご利用時間の拡大や振込機能の向上などの利便性が増し、会員・組合員の皆様に満足度の高い金融サービスが提供できます。

また、「収益の回復」により経営の更なる安定化を図るとともに、昨年の国際協同組合年を契機に再認識した「共助」の運動として、社会的課題にもウイングを広げNPOとの連携や協同組合間の連携を通して「共生」や「公益」をめざす社会的金融機関としての役割も発揮してまいります。

本年も引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。



全国農業協同組合連合会
兵庫県本部
県本部長
鳥岡照義

生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋に

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素は、県内農畜産物をご愛顧いただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

本会は、「日本農業・地域社会を守り発展させること」「安全・安心な農畜産物を消費者の皆様にお届けすること」を基本的な使命として事業に取り組んでいます。

昨今の農業をとりまく環境は、長引く景気不況、消費者の低価格志向、円高の定着、原発事故による風評被害などから価格の低迷が続いており、厳しい状況にあります。このようなかた、TPP参加表明がなされた場合、農業生産基盤が壊滅的な打撃を受けることは明らかであり、本会は日本の農業の維持と食料自給率向上のために断固反対の立場で臨みます。

また、東日本大震災による原発事故以降、消費者からはこれまで以上に食品に対する安全・安心が求められており、私たち全農グループは、「生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋になります」という経営理念を掲げ、国産農畜産物の販売力強化を基本戦略とし、「安全で新鮮な国産農畜産物の提供」に取り組んでまいります。

消費者の皆様への負託にこたえるべく、今後とも一層の努力をいたしますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(以上、敬称略)

近畿労働金庫では預金を通して、エコ推進・子どもたちの未来応援・災害復興支援・国際協力を行っている各分野の活動を応援することを目的に10月1日より社会貢献定期預金「すまいる」を新設しています。

当金庫は、多様な活動を応援することを通して、「助け合い」の輪をさらに広げ、「共生の社会づくり」をめざしていきたいと考えます。これからも、「すべての勤労者の笑顔のために」さまざまな取り組みを進めてまいりますので、「意思あるお金」の流れをつくる社会運動へのご協力をお願いいたします。

社会貢献預金
すまいる

すべての勤労者の笑顔のために
《意思あるお金》の流れをつくらう!

4つのコースからお選びいただけます

- 災害復興支援
- エコ推進
- 子どもたちの未来応援
- 国際協力

すべての勤労者の笑顔のために

近畿ろうきん

<http://www.rokin.or.jp>

お客様センター ☎0120-191-968

月曜～金曜9:00～18:00(土曜・日曜・祝日・12月31日～1月3日は除く)

〈携帯サイト〉



<http://krokin.jp>

世界の協同組合の仲間とともに 国際協同組合同盟アジア太平洋地域総会が開催されました

11月26日（月）から30日（金）、神戸国際会議場におきまして、世界各国の協同組合が加盟する「国際協同組合同盟（ICA）アジア太平洋地域総会」が開催されました。11月28日には、総会の一環として開かれた「協同組合フォーラム」に、18カ国、約500人が参加。「災害時における協同組合の役割」をテーマに、東日本大震災やタイ洪水などでの取り組み報告や、パネルディスカッションが行われました。

ICAのポーリン・グリーン会長は、「復興に向かっていく日本を模範に、各国の協同組合もさらに連帯を深めましょう」と呼びかけました。

また、IYC（国際協同組合年）全国実行委員会代表の内橋克人氏が「安心社会を築く」と題して特別講演を行い、「協同組合が築く、よりよい社会を深め、“地域”“利益”に続く『第3の協同体』である“使命”協同体で、安心できる地域社会を作りましょう」と講演されました。



協同組合の連帯を呼びかける
ポーリン・グリーンICA会長



総会開催に合わせ、協同組合事業内容に分かれての各種委員会も開催。11月27日には兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC…生協・農協・漁協・森林組合の連携をはかる組織）の主催でコープこうべ生活文化センターにおいて、「ICA-AP地域総会 女性委員会交流会」が開催されました。韓国やインドネシア、イラン、マレーシア、ネパールなど日本を含む10カ国から70人が参加しました。交流会では農協・漁協・森林組合・兵庫県生協連が活動の状況を紹介。続いて、コープこうべ商品検査センターの見学や着物の着付け、茶道、折り紙などで、さらに交流を深めました。



◎ICAとは

国際協同組合同盟（ICA）は、1895年ロンドンに設立された世界の協同組合の連合組織（現在の本部：ジュネーブ）。世界各国の農業、消費者、信用、保険、保健、漁業、林業、労働者、旅行、住宅、エネルギー等あらゆる分野の協同組合の全国組織が加盟しています。2012年3月現在、ICAの加盟組織は96カ国 266団体、傘下の組合員は世界全体で10億人を超えています。世界各国に協同組合運動を広げ、協同組合の価値・原則の普及と協同組合間の国際協力の促進、世界の平和と安全保障への貢献等を目的として、情報発信、国際会議・セミナー等の開催、国連機関等への提言・意思反映活動等に取り組んでいます。

2012年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

- I. 開催日時 2012年12月3日(月)午後3時～5時
II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」
III. 出席者 本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、
板崎、高橋、福島、新保、伴、大沼、小野田、酒井、桑村(以上、理事)
藤田、金丸、秦(以上、監事)

〈協議事項〉

- (1) JA全農兵庫県本部による兵協連脱退申請について
(2) 兵協連による東日本被災地ボランティア支援活動について

(3) ICA-AP地域総会(11/26～30)参加報告について

(4) 2013年6月理事会の日程変更について

(5) 「会員生協の概況報告」について、各出席理事・監事より報告

(6) 前回理事会～10月上旬までの兵協連行事・活動報告

〈報告事項〉

- (1) 上期監査報告について
(2) 「2012国際協同組合年」兵庫JCCの取り組みについて

- (7) 兵協連第3回生協対策資金貸付審査会開催報告
(8) 兵庫県健康福祉部と兵協連理事会との懇談会の進行について

第11回兵庫県健康福祉部と兵協連理事会との懇談会報告

- I. 開催日時 2012年12月3日(月)午後4時30分～5時30分
II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」
III. 出席者 (兵庫県) 山本福祉監、村上局長、川村参事、友久課長、星野課長補佐、池田食品安全官
(兵協連) 本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、板崎、高橋、福島、新保、伴、大沼、小野田、酒井、桑村(以上、理事)、藤田、金丸、秦(以上、監事)

① 挨拶および県下生協の現況について
兵協連 本田 英一 会長理事

(医療生協) 兵協連 板崎 聡 理事
(神戸医療生協 専務理事)

② 挨拶および各分野別生協の現況について
(地域・職域購買生協) 兵協連 新保 雅子 理事
(生活協同組合コープこうべ 理事)

(共済生協) 兵協連 小野田 敏行 理事
(神戸市民生協 専務理事)

(大学生協) 兵協連 寺尾 善喜 副会長
(大学生協阪神事業連合 専務理事)

③ 挨拶および平成24年度消費者行政等について
兵庫県健康福祉部生活消費局長 村上 和典 様

④ 意見交換

平成24年度 がん・生活習慣病講演会のご案内

わが国は世界有数の長寿国となる一方で、高齢化の進展や生活習慣の変化等により、疾病全体に占めるがん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の割合が増加しています。

がんをはじめ生活習慣病の予防や治療に関する正しい理解を深めるとともに、個々人の健康づくりの意識を高めることにより、誰もが健康で生涯を通じていきいきと暮らすことができる健康長寿社会づくりに向けての講演会を開催いたします。

●日時：平成25年1月24日(木) 13:30～16:10

●場所：社団法人兵庫県医師会館 2階大会議室(神戸市中央区磯上通6-1-11)

●対象：県民、健康ひょうご21県民運動推進員 約400名

●内容：講演(13:45～16:00)

講演Ⅰ 13:45～14:45

演題「タバコ成人病COPDは治療できる病気です～正しく理解して進行を防ぎましょう～」

講師：名古屋市立大学大学院 医学研究科 腫瘍・免疫内科学 教授 新実 彰男 氏

講演Ⅱ 15:00～16:00

演題「健康と寿命を考える～医学的観点、歴史的・生態学的視点から～」

講師：日本学術振興会学術システム研究センター 相談役 黒木 登志夫 氏

●参加費：無料

●参加申込み：往復はがきに 氏名、住所、電話番号を記入のうえ、

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-29 (公財)兵庫県健康財団 健康づくり部 健康づくり課 まで。

●締切：1月16日必着(先着順) 定員になり次第締め切ります。

主催：公益財団法人兵庫県健康財団、社団法人兵庫県医師会

後援：兵庫県、神戸市、(公社)兵庫県栄養士会、(公社)兵庫県看護協会、(社)兵庫県歯科医師会、(社)兵庫県薬剤師会、生活協同組合コープこうべ、健康ひょうご21県民運動推進会議、朝日新聞社、神戸新聞社

●問い合わせ：(公財)兵庫県健康財団 健康づくり部 健康づくり課

TEL：078-512-5075(直通) FAX：078-512-5095

生活協同組合コープこうべ

組合長が公開講座の講師を務めました

12月5日(水)、神戸大学で公開講座「協同組合論〜協同組合のアイデンティティと役割〜」が開かれ、本田英一組合長理事とコープこうべ協同学苑の野尻武敏学苑長が講師として招かれました。この講座は、全国大学生協連が開催する国際協同組合年事業の一つ。学生と一般聴講者合わせて約300人が集まりました。

野尻学苑長は、「明日を拓く協同組合」と題して、国際協同組合年や協同組合の意義を講義。賀川豊彦の功績を紹介し、これからの社会づくりにおける若者への期待を述べました。本田組合長理事は、「地域生協が地域社会づくりに果たす役割」と題して講演。「生協は、その生い立



講演会場

ちと経験から社会に貢献できる組織体。しかし、民間団体である以上、市場経済の中で戦い、自力で乗り切っていかなければなりません。生協の立ち位置を説明。「しかし、コープこうべの事業やサービスは、組合員のくらしをカバーしきれていないのが現状です」と、コープこうべの課題を提示。その上で、買い物難民の問題や大災害時の支援活動など、地域社会が生協に求める機能について述べ、「生協が存続し続け、より良い社会づくりに貢献するには、社会問題解決力を高めなければなりません。そのために今、『次代コープこうべづくり』に取り組んでいきます」と、講義を締めくくりました。

(通信員 榊原晶子)



本田組合長

姫路医療生活協同組合

関西地連

第2回福祉事業交流会を実施しました

10月18日(木)の午後、日本生協連関西地連の皆様へ第2回福祉事業施設見学として姫路医療生協にお越しいただきました。購買生協の福祉事業責任者の方々8名と協12名と事務局5名の計17名の参加でした。

当日は、まず、当生協の福祉介護センターや医療機関を4コースに分かれて見学いただきました。当生協の福祉介護センターは1つの建物の中に複数の事業所(たとえば小規模多機能ホームとデイサービス、小規模多機能ホームと訪問看護と訪問介護、居宅介護支援事業所と訪問看護と訪問介護と訪問入浴、等)が併設していることが特徴です。

見学の後、「姫路医療生協の事業・経営戦略〜姫路医療生協がめざす地域包括ケアの推進〜」をテーマにお話しさせていただき、意見交換をおこないました。

参加者からは、「地域包括支援セ

ンターと居宅との連携がきめ細やかに関わり、高齢者が安心して暮らせる取り組みが充実していると実感しました」「理念のとおり、利用者・職員の笑顔が印象に残る施設だと感じました」という感想をいただきました。これからも地域とともに、安心して暮らせる取り組みを行ってまいります。

(専務理事 黒岩勝博)



JF 兵庫県漁業協同組合連合会

ジャンボ巻き寿司に挑戦 ～兵庫海苔問屋協同組合と JF兵庫漁連のイベント～

“兵庫のり”の魅力を広め、消費拡大につなげようと兵庫県海苔問屋協同組合（松谷 晃会長：松谷海苔株）とJF兵庫漁連は、毎年この時期にイベントを開催しています。3年目の今年は、今までと趣向を替えて“長～い巻き寿司を作ってみませんか”ということでイベント「おやこでジャンボ巻き寿司に挑戦！」を開催しました。



具を次々に乗せていきます



「せーの」のかけ声で一斉にギュッ！

11月11日（日）、会場である兵庫県水産会館（明石市）には朝からイベント参加の親子約50名が集まり、「兵庫のりが出来るまで」のDVDで学んだりしたあと、ジャンボ巻き寿司作りに挑戦しました。会場には長いテーブルが2本。参加者は2班に分かれ、スタッフから9メートルの巻き寿司を2本作ることを聞いてやる気満々の様子。ノリが配られ、手順の説明があると早速、巻き寿司づくりに取り掛かりました。小さい子どももお父さん・お母さんの手を借りて、イカナゴのくぎ煮などの具材を上手に並べていき、スムーズに乗せ終わりました。具材が全て乗せ終わると、スタッフからの「せーの」の掛け声のもと、参加者は一斉に寿司簾を巻きました。「わあ～」の歓声のもと、2本の巻き寿司は見事に出来上がり、参加した親子からは笑顔がこぼれていました。

完成した巻き寿司は、全員で持ち上げて記念撮影をしたのち、切り分けられ用意された味噌汁とともに試食。参加した親子らは、ジャンボ巻き寿司を作り終えた達成感と具たっぷりの巻き寿司の味にとっても満足したようでした。参加者の皆さんは兵庫のノリ養殖につ



見事、9メートルの巻き寿司の完成です！

いて学び、味わって満足した1日となったのではないかと思います。これからも兵庫海苔問屋協同組合とJF兵庫漁連は兵庫のりの魅力をPRしていきます。

JA 兵庫県農業協同組合中央会

合併20周年 ふれあいフェスタ開催

JAあかしは11月23日、農産物直売所（フレッシュ・モア大久保店）で合併20周年記念事業「JAあかし ふれあいフェスタ2012」を開催しました。あいにくの小雨にもかかわらず、フェスタは終日多くの来場者でにぎわいました。

会場には、組合員・利用者に日頃の感謝の気持ちを込め、生産者・職員による模擬店・事業相談コーナーなど多数のブースを設置。野菜コーナーには、新鮮な明石産キャベツの特売やたまねぎ詰め放題のコーナーを設けました。お米コーナーでは、今年10月に「ひょうご安心ブランド農産物」の認証を受けたヘアリーベッチを使い、減化学肥料・減農薬で栽培した特別栽培米ひのひかり「花美人」を販売し、来店者に積極的にPR。

また、イベントステージは、神戸出身のミュージシャン 羽越^{うえつ}カレンさんとあかし玉子焼きひろめ隊マスコットキャラクター「ひろめちゃん」による歌とダンスで大いに盛り上がりました。地元明石北高校音楽部総勢50人の迫力あるマーチングと演奏も、会場を沸かせました。

JAあかしは今後も、「地域への貢献、地域との共存」をキーワードにして地域に密着した事業活動に取り組みます。





最近の消費生活相談事例

宝くじ当選・賞金・懸賞商法 トラブル急増！

事例

中国から、「最終通告 賞金支払通知」と書かれた封筒が届いた。「貴殿宛て未処理賞金が確認されたため通知する。未処理賞金総額は2億3,200万円以上。10日以内に返信必須。期限内に返信が確認できない場合は、データが永久抹消処理され、今後一切賞金の受領が不可となる」と書いてあり、手続きをするには郵便為替かクレジット払いで、請求手数料2,000円の支払いが必要。返信用封筒の宛先はカナダになっている。

【アドバイス】

県内の消費生活相談窓口に寄せられる、「当選・賞金・懸賞商法」に関する苦情件数は、2010年度300件から2011年度482件と1.6倍に急増しています。高齢者宛にダイレクトメールが送付されるケースが多く、60歳以上が8割を占めています。それらの特徴は次のとおりです。

- ①中国、オーストラリア等からのエアメールが多い。
- ②「当選金」や「懸賞金」の受取権利、授与資格という記載が多いが、そもそも申込みをしていないし、何の当選金なのかははっきりしない。
- ③日本では考えられないような高額な当選金等の額（10億円など）となっている。
- ④期限内（14日以内など）に氏名登録や入金などの手続きをしないと、永久に懸賞金等を受け取る権利を失うと急がせる。
- ⑤懸賞金等受け取りの為の手数料（2,000円～50,000円）を郵便為替で送付するか、クレジットカード番号を記載して書類を送付することを促す。
- ⑥返信用封筒が同封されている。

被害に遭わないためには、次の点に注意しましょう。

- ①自ら申し込んでいないのに、高額な賞金等が獲得できることはありません。
- ②送付元に住所、氏名、クレジットカード番号などを伝えると個人情報流出することになるので、絶対に返信しないこと。
- ③一度お金を支払うと返金は困難です。
- ④DMやメールの誘い文句に惑わされず、おいしい話に飛びつかないようにしましょう。
- ⑤海外宝くじであれば、日本国内で授受することは刑法第187条第3項※に違反する可能性があります。
- ⑥不審・不安なことがあれば、早めに最寄りの消費生活センターへ相談しましょう。

※「刑法第187条」富くじを発売した者は、二年以下の懲役又は百五十万円以下の罰金に処する。

2 富くじ発売の取次ぎをした者は、一年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

3 前二項に規定するもののほか、富くじを授受した者は、二十万円以下の罰金又は科料に処する

（兵庫県生活科学総合センター）

MOVE

2012年度ひょうご消費者セミナー

～ 消費者はもう泣き寝入りせえへんで～



- 消費者団体出身の阿南久さんが消費者庁長官に就任。消費者庁の現状と今後の課題、消費者団体（生協）へ期待することをお話しいたします。
- 「集団的消費者被害救済制度」について、まずその法案の中身をみなさんに知っていただき、消費者にとってより使いやすい制度にするため、寸劇とパネルディスカッションで問題点と課題を明らかにしていきます。

- ◆とき：2013年3月12日(火) 午後1時～3時30分
- ◆ところ：兵庫県民会館11Fパルテホール
神戸市中央区下山手通4-16-3 078-321-2131
(JR・阪神 元町駅より徒歩10分、地下鉄県庁前すぐ)

- ◆内容
〈第1部〉
講演：「消費者庁の現状と今後の課題」
講師：消費者庁長官 阿南 久さん

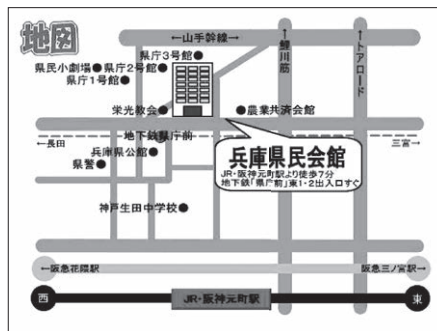
〈第2部〉
テーマ：「集団的消費者被害救済制度について
～消費者はもう泣き寝入りせえへんで～」

寸劇：大阪大学学生劇団「ちゃうかちゃん」

パネルディスカッション：
行政、学生、ひょうご消費者ネット（適格消費者団体）がパネリスト、新制度について事例を交えてわかりやすく説明します。

- ◆参加費：無料（定員150人。お早めにお申し込みください）
- ◆締切：2月28日(木) ※定員になり次第締め切ります

- ◆申し込み方法：
兵庫県生協連合会までお電話でお申し込みください（電話：078-391-8634）
- ◆主催：
コープこうべ、兵庫県生協連合会、ひょうご消費者ネット、消費者支援機構関西
- ◆後援：兵庫県・神戸市



2012国際協同組合年事業 大学生協寄付公開講座

「協同組合論」～協同組合のアイデンティティと役割～

「2012国際協同組合年事業」として、全国223大学生協でつくる全国大学生協連の寄付による「協同組合論」講座を神戸大学創立110周年記念事業として一般公開いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。



【2013年1月23日(水)】

- 13:20～14:50
「日本の生協の2020年ビジョンと今後の展望」
講師：浅田克己氏（日本生活協同組合連合会会長理事）
- 15:10～16:40
「ICAを中心とした協同組合のグローバル活動」
講師：天野晴元氏（日本生活協同組合連合会国際部部長）

会場：神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂
(阪急・JR・阪神から神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き乗車「神大正門前」下車)
主催：神戸大学大学院経済学部研究科
寄付：全国大学生生活協同組合連合会／
大学生協 大阪・兵庫・和歌山ブロック
お問い合わせ：全国大学生生活協同組合連合会
大阪・兵庫・和歌山ブロック TEL. 078-262-5700

編集後記

「兵協連だより」は、今月号で通算「第500号」を迎えました！昭和43年（1968年）11月1日の第1号は「兵協連ニュース」という名称で、生協法施行20周年記念の特集が組まれた創刊号でした。そして1971年8月号から名称を「兵協連だより」に変え、現在に至っています。創刊号には、当時の兵協連会長次家幸徳氏が寄稿されています。「一人は万人のために、万人は一人のために」という愛と協同の人類愛に基づいた消費者自身の協同の力によってお互いの生活を守らんとする生協組織以外には、消費者の真の味方は絶対にはあり得ないのである」という熱い思いを受け取り、身の引き締まる思いがしました。☆先日、ある方がこんなお話を伺いました。「冬に木が葉を落として枯れ木になると、太陽をたくさん浴びて春に向かって新芽を準備するため」だと。新年を迎えることで、自分を振り返ったり、新しいことを始めようというきっかけになったりします。「三日坊主」ということでもあります(汗)。始めてみた・・・ということでも、よし！としましょう。人生の中でのスタートは、どこからでも始められますから・・・☆2013年も、みなさまにとって良い年でありますように。今年も兵協連と「兵協連だより」をよろしくお願ひいたします。(中尾)

県連日誌

- 1月5日(土) 新春トップセミナー(県民会館 福)
- 1月17日(木) 賀詞交換会(県民会館 鶴)
- 1月18日(金) 第8回初級経理学校(県民会館 B101)
- 1月25日(金) 兵協連第3回大学生協部会(大学生協神戸会館)
- 1月30日(水) 兵協連第5回生協活動委員会(県民会館 ばら)